

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401895		
法人名	社会福祉法人まりも会		
事業所名	グループホーム樹の実		
所在地	573-0137 大阪府枚方市春日北町4丁目1-20		
自己評価作成日	平成24年5月20日	評価結果市町村受理日	平成24年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年6月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム樹の実は設立10年目をこの春に迎えました。社会福祉法人まりも会が「地域の高齢者の為に役に立てる施設を作りたい。」「地域で安心していつまでも暮らしたい。」と望んだ思いを抱き、前進に繋がりたいと考えています。地域のさりげない関わりはこの9年間の歴史の中でしっかり培われ、これからはその関係性を土台に、もう一步の前進を踏み出したいと思っております。同法人の保育所や障害者施設との連携はもちろん、他事業所とも介護保険制度の関係だけでなく、地域の施設間の関わりの中で催し物への参加や助け合い、又地域の方々の寄り合いの場になればと、歌や踊りの披露の場としても活用いただいています。認知症介護を行う地域密着型事業所としても、デイサービス ショートステイを持ち、地域支援に積極的な関わりを行っています。

隣接する同法人の保育所運営で育まれてきた、長年にわたる地域住民との深いつながりが、9年前に開設された当事業所の運営にも引き継がれている。そのために、ここで暮らす利用者は保育園児との交流や、春日ふれあいサロン、地域ボランティアの支援等、津田春日地区の協力で支えながら、穏やかな毎日を過ごしているように思われる。「チームどんぐり」という家族で結成された活動が、事業所内で喫茶、バイキング、季節の食事会、バザー等を行うなど、事業所と家族会が協力して利用者の暮らしを支援する関係を見る事が出来る。そして、職員は家族的で親しみやすいと家族から評価されている。また、介護のプロとして利用者に向き合うことで、日々、多くの感動を利用者と家族に与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「人権を尊重した社会事業を行なう」「地域住民と力をあわせ、社会福祉を発展させる為の役割を果たす」を基に、新人職員研修時に伝え理解に努めている。又、会議の中施設内研修で理念について確認を行なっている。	事業所に求められている、「地域に根ざした運営」を目指した表現を、理念に取り入れており、職員についても研修や日常の仕事の中で、理念の意味合いを確認をしながら、利用者の介護取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の納涼盆踊り大会には、毎年樹の実からも職員がお手伝いに参加したり、地域の老人会の方々 サークル活動の方々に来所頂き、踊りや歌 手品など披露してもらうなど、地域との交流を視野に含んだ関わりを行っている。	地元住民との付き合いは、隣接されている系列の保育園の以前からのネットワークをベースにして確立されている。住民との交流や多方面からのボランティアを積極的に受け入れて、自然な形での地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成23年度は地域より「認知症についての話をしたい」とか、事業所より「グループホームについての説明をして欲しい」等のご依頼を頂き、認知症対応型としての役割や地域密着型としての責務を、果たしたいという思いで活動に繋がった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの支援内容をよりわかりやすく映像化し、毎回参加者の方々に見て頂き、積極的な意見交換の場になっている。又、地域でのお困りの事や、何か樹の実がご協力できる事はないか等についても、地域包括支援センターを中心とする地域の方々に必ず発信するよう心がけ、推進会議が地域と事業所 入居者の家族様を繋ぐ場所になる為に働きかけを行っている。	当事業所の運営会議は形式化することなく、内容のある会議運営となっている。利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みを映像で紹介して、グループホームを理解してもらうような努力もしている。また、事業所からの地域貢献活動として、高齢者介護の講師依頼を引き受ける事で、地域福祉活動の向上に協力している。	運営推進会議の内容も地域密着を目指す事業所の方向性に沿った内容である。さらに、職員が交代で会議に参加する等を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当課・担当職員とは日常的に相談、協議できるような関係になっている。電話や面談にて実情を伝えたり、サービスに係る相談などを積極的に行なっている。また地域包括支援センター主催のグループホーム 東部地区連絡会では、事務局としての担当を頂き、協力体制を構築している。	行政の窓口とは緊密な協力関係が構築されている。行政の方針の確認、事業所の課題の相談・協議、また事業所が地域で果たすべき活動に関する打ち合わせ等々、現管理者の以前からの高齢者介護経験とキャリアが行政と事業所の連携に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修の予定を立て、常勤は月に1回はOJTの一環とし、研修会を設けている。その中で身体拘束の学習会を行い、終了後各職員の意見をシートに纏め、積極的に身体拘束について学びケアへの意識を改めた。	介護する上で「緊急やむを得ない身体拘束」に該当する内容は、部内の研修や、日々の申し送り記録で、全職員に周知徹底している。帰宅願望のある利用者には、職員が事前に状態を把握して、付き添うなどの配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待の学習会も行い、具体的にどのような行動が虐待になるのかについて勉強会をした。その後介護職より、「虐待は放置的行動や精神的ダメージも含むんですね」などの振り返りの姿勢がみられ、現場の対応への変化も感じている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年権利擁護の研修を予定していたが、全員での学習会には繋がっていない。成年後見制度についての勉強会は、早急に行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間を取り、内容についての理解につなげる働きかけを行っている。特に、不安や疑問点については、具体的なケアの例などを示しながら、方向性を確認できるような話し方に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に職員・管理者が直接窓口となり話をゆっくりお聞きするように心がけている。又、「意見箱」を設置し、自由に思いを伝えられるよう配慮している。家族の来所時、入居者の方の状況や経過をお伝えすると同時に、ケア内容への希望や要望は無いかを聞くように努めている。又、苦情発生時は速やかに管理者につなぎ、苦情発生時手順に従い改善に向けて取り組む。	毎月、「樹の実だより」が家族に届けられている。お知らせ、行事予定、そして利用者の暮らしぶり等を詳しく伝える一方、年に2回の家族会を持っている。昼食会を挟んで、午前は家族からの相談対応、午後からの利用者となら一緒に楽しむ催し物は、思い出づくりにもなっている。このように「家族と協力して利用者の暮らしを支える」という事業所の積極的な取り組み姿勢を、感じる事が出来る。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は「管理者としては、職員との関係性の構築が、運営上最も大切である」と考えており、職員の思い《考え・悩み》を聞く姿勢の中で運営についての話や、理解を経て、目標に向かい議論の出来る関係作りを目指している。	各ユニットのリーダーを中心に、チームケアの実現に向けて、利用者に関する情報の共有、運営の課題解決に向けた話し合い等、良好な職場づくりへの取組が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めようとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所は、各自独立した事業体としての責務を持つように、日ごろより代表者から指導を受けており、その中で事業所の質の向上を目標とし職員間の内部研修を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の、3ヶ月に1回開催される東部地区グループホーム連絡会への参加を行なっている。その会での世話役を努めながら、地域密着事業所としての位置づけを踏まえ、地域支援のきっかけ作りを行なっている。又「枚方市介護支援事業所連絡協議会」「認知症ケア学会」「大阪府認知症グループホーム連絡会」等に参加し、情報交換や事業所間連携を行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔や穏やかな表情、しぐさ、言葉づかいなどを心掛けながら、ご本人が安心して打ち解けられる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	挨拶や表情、又、家族様への声掛けなどに注意を払いながら、お尋ね頂き易い雰囲気づくりを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報についてのシートの確認やご本人 家族との面談でアセスメントを行い、その後何が必要なかを提案しながらサービスの内容を具体化している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	樹の実の家はご本人の安心できる住処にする為に、関係性作りに力を入れている。行動を共に行う事で、暮らしていく仲間である事を感じていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とご本人の歴史をお聞きしながら、入居により関係性がより深まるようなご支援を行っている。樹の実には家族様で作るボランティアグループがあり、月に一回食事やおやつを作ってください、「入居している親の為に何かがしたい」と取り組んでくださっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活が出来るだけ継続できるように、来所者の受け入れ(近所の方々 むかし行っていた教会の方々 友達 サークルの仲間など)、手紙のやり取り 電話(携帯電話・インターネット)など特に制限せず支援している。	事業所の暮らしの中でも、利用者の昔からの知人や、社会とのつながり(良く行った場所、美容院などの店)が継続できるように、家族にも相談しながら支援している。自宅への一時帰宅や、墓参りなども、暮らし方の継続として手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の構築は難しいが、食事席の配置を工夫するなど、関係を作る環境づくりには勤めている。生活リハやレクなどで顔を合わせ話す場面を作り、入居者同士で友達になれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談を必要とされる場合や事業所が何かお役に立てるときは、積極的に関わりを持つように勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が取りにくくなってきており、ご本人の思いに付いても「これが良いのか」と模索しながら進んでいる。希望や意向を把握する為に、ご家族様とのカンファレンスも行っている。	利用者個々の情報として、本人のこだわりや、趣味、嫌なことなどを記録して、職員同士で情報交換しながら、本人の意向に沿った支援を行っている。職員は本人にとって「居る甲斐」(生き甲斐のような)の場面が多くあるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報収集に努めるも十分とは言えず、ご本人の関係者の方々からお話をお聞きし改めて知る事も多くある。その方が過ごし易くなるための発見はこれからも重ねて行きたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	樹の実では、健康管理表をチェックシートを記録する事や、いつもと違う様子の有無を把握しながら、生活面での動きの積極化に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場職員との会議を持ち、家族様との話し合いも重ねながら、現状に即した介護計画を作成しようと努めている。	定期的にモニタリングを行って、利用者の生活の見直し等についても、職員が思い思いの意見を出し合いながら介護支援計画書を見直し、さらに実施段階でのチェック項目をピックアップして、生きた介護計画の実現に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	他職員の記録を読み、把握するのが精一杯で、介護計画見直しには活かしきれいなと思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のかたがたとの関わりを蜜にしているホームです。犬の散歩中に会話が弾んだり、花や野菜を頂いたり、関わることで社会性を発揮できる場面が自然に出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	樹の実が開かれたホームを目指す為に、事業所に関わってくださる機関の拡大を図り、その点を特徴としている。現場職の支援だけではなく、外部から来られる方々 ボランティアさん等の協力を得ながら、入居されている方々の力を引き出す関わりを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診や訪問看護の来所に対して、事業内の看護師が医療機関対応を行っており、関係性の構築に繋がっている。	本人や家族の希望があれば、以前からの「かかりつけ医」による受診を支援している。看護師を職員として配置し、協力医療機関と連携し、早期発見、早期対応で利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場職は入居者の方々の変化や、異変を速やかに事業所内の看護師につなぎ指示を仰いでおり、受診や入院の必要のある重篤な状態の場合は、積極的に看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所内看護師が入院用の情報提供書を作成しており、入院時には病院関係者との情報交換がスムーズになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず御入居の際に重度化や終末期の方針へのご同意を頂き、重度化する危険があると感じた際に再び説明の機会を設け、終末期に近づく中で繰り返し確認作業を行う。必要に応じて、担当医や他機関の方々を含んだ会議を行い、チームにて対応をおこなっている。	入所の時点で、「重度化した時の事業所の対応方針」を家族に説明して、「重度化及び看取りについて」の文書に同意を得ている。対応が必要になったと判断した段階で、再び家族と相談し、医師の意見を参考にしながら、事業所として出来る限りの対応を行う支援体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的には大まかな応急処置のみで、急変時にはいかにスムーズに、救急隊を呼ぶかを徹底している。ホームの各事務所には、急変時の対応マニュアルを添付し、全職員への周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画を立て、避難訓練については計画に従い実施している。又地域の方々にも、運営推進会議等にて、地震の際には、当事業所を避難場所に使ってくださっても、構わない事を話している。	火災通報装置他の防災設備は整備されている。避難訓練は消防署の協力と指導により行われ、職員の防災意識にもしっかりしたものがある。運営推進会議でも災害の場合の協力支援について話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご家族様が見たらどう感じるか、認知症になる前のご本人ならどう思うかなどさまざまな視点で各職員のケアがご本人を尊重したものであるかを確認するよう促している。	個人の尊厳、個人の情報保護の遵守、利用者への言葉づかいや対応方法を職員に徹底し、職員は十分に理解できている状態にある。また職員間で注意し合いながら、利用者、家族との信頼関係づくりに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のドリンク選びから始まり、自己決定の気持ちを尊重するよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に支援しており、その人が出来る事を支援し、その日の状態により判断しながら、いるがい作りをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髪をといたり、化粧を促したりしている。服を選べる方には声かけもするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者ができることは声かけし、一緒に行なうようにしている。味付けや盛り方なども、各々のご利用者の希望に添う努力をしている。	食事の準備では利用者の参加を促し、残存能力に応じて家事を行っている。また、お互いが会話しながらの食事風景である。食事が終わったら、順番に食器洗いが行われている。食事の場面が生活リハビリとして活用されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご自分で食べない方には食事介助したり、一般食でムセのある方にはトロミをつけたり、ミキサー食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回は行なっている。それぞれの状態に対応して行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかむようしている。リハビリパンツなどでなく、布パンツの使用を心掛け、トイレへ行っていただく支援を目指している。	個々の排泄の頻度や特徴を把握して、事前のトイレ誘導を心掛けている。食事への配慮を含め、自立した快適な排泄習慣の維持を重点課題として取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操や、ヨーグルト摂取などを心がけている。又散歩など運動を行い、その後は、水分を多く摂ってもらえるよう支援している。飲めない方には好みの飲み物などを提供することで水分摂取量を保っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望におおむね添った支援を行なっている。	週に2回～3回の入浴支援が行われている。基本的に本人の希望を尊重し、ゆっくり入浴してもらうように支援している。拒否がある時は時間や日を変えて、あるいは清拭による対応等で清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中出来るだけ起きておいてもらえるように、フロアでの楽しみ事を提供する支援はおこなっているが、休息や睡眠はご利用者の希望を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬が変更になった際には、その都度申し送りをして把握に努めている。副作用については、ホーム看護師からの注意が入るなど、又担当薬局からの説明を受けるなど、徹底し安心頂ける服薬支援の提供を目指している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにゆっくりと関わり、個別の楽しみごとができる時間が実際には作れていないと思うので、今後は一人ひとりの楽しみごとの時間が作れればよいと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って、その都度出掛けることは実際にはできていないので、数人で出掛けられる日は、なるべく出掛ける(散歩etc)よう、心掛けている。家人様にも協力してもらえ環境作りを、もっとしていくことも大切と思う。	限られた職員体制の中であっても、利用者の体調や気分、その日の天候を見ながら、少しでも外気に触れるような工夫や、季節季節の企画行事で外出の楽しさ、新鮮さを味わってもらうように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方のみ所持されている。他の方は持っておらず、又、個人のお金を使えるような場面を作り出せていない。希望する物をスタッフが購入している。買い物にはあまり行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる入居者様は自由に使用している。又、希望があればホームの電話も使用して頂いている。年賀状、暑中見舞いの声かけも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを毎月作っている。音や臭い、温度に気をつけている。又、草花や会話などで季節感を感じることができるようになっている。毎日清掃し、同じ環境を維持している。	事業所の裏側の田んぼから自然の風が建物の中に入ってきて気持ちが良い。玄関を入ったところから、木質感を重視した和風な雰囲気レイアウトされた建物内部である。皆で過ごす場所や、また、独りになれる場所も適度に確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチをあちこちに置くことで、皆、思い思いにすごしておられる。又、自分の部屋に他の人も入れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、馴染みの品などを持ってきたり、各入居者様が思い思いに自分の部屋作りをされている。又、動線を考え、物を置いて移動時の危険性を減らしつつも、使い慣れた物を使っていただく支援は怠っていない。	居室は清掃が行き届いている。物を置くことで利用者の状態が不安になる場合を除き、自分の馴染みの家具や物を置き、気分が落ち着いて来るような部屋作りが、家族の協力を得ながら行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方には家具でつかまる所を作り、安全に歩けるよう工夫し、又居室の名前を大きくしたり、トイレの文字を大きくしたりしてわかりやすくしている。		